

平成30年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
泉中学校	教科一般	学習形態の工夫

1 研究の重点と具体的な取組

- (1) 「導入」では、主体的・対話的で深い学びを実現する「学び合い」が生まれるような課題の吟味・設定の工夫を行う。
- (2) 「展開」では、シェア・タイムを中心とした学び合いの良さの実感を生む手立ての工夫を行う。
- (3) 「終末」では、課題と正対したまとめ・振り返りの時間の充実を図る。
- (4) 研究委員会を中心に、学校全体で取組の共通理解及び実践を目指す。

<授業以外で行う取組>

- ・定期テスト前だけでなく、必要な機会に基礎基本の定着に向け、ミニテストなど各学年の生徒の実態に応じた学習指導を各学年・教科で行う。
- ・学習プリント集に計画的に取り組む。

2 取組の検証

- (1) 週案に課題を明記し、全教員が課題の内容・表現の工夫に努める。また、課題とまとめの設定に関する校内研を行う。
- (2) ねらいに合わせた条件づけを行いながら、資料や具体物、式、図などを活用して説明し合う学び合いの活動（「シェア・タイム」）を各教科の授業で導入する。
- (3) 週案に課題と正対したまとめを明記し、タイマーを活用しながらタイムマネジメントを意識する。また、自分の言葉でまとめや振り返りを書かせる。
- (4) 校内研修会（定期的に開催）、研究授業、小中一貫授業参観等を通して、研究の推進を図る。

(1)及び(4) 校内研の実施

7月と10月に特設研究授業を参観する全体研を実施した。6月は英語科、10月は道徳の授業を全員で参観し、その後の整理会では、課題とまとめだけではなく「シェア・タイム（学び合い）」について、道徳では来年度の教科化へ向けた評価について意見交換を行い、その上で講師による指導・助言を受けた。

7月の研究授業では教員を所属学年毎の3つのグループに分け、学び合いの形態や目的の視点で授業を参観した。整理会ではそのグループ毎に意見交換を行った。

10月は、8月に道徳の事前研を兼ねた研修を行い、課題やまとめ、「シェア・タイム」の持ち方について協議し、研究授業前には3クラスで先行授業を行った。

今年度は各自の指導案に板書計画を必ず載せることとした。板書計画を意識して授業ことで、生徒がまとめや振り返りを自分の言葉で書くためのヒントとなり、また、教師自身タイムマネジメントをスムーズに行うことが出来ると考えた。

(2) 学び合い活動の充実

ホワイトボードを新たに5枚ずつ追加し各学年ごとに2セット（1セット15枚）、「まなボード」1セットを各授業で活用し、考えの交流に使用した。

(3) タイムマネジメントの意識及びまとめや振り返りの実施

各教室（特別教室も含む）に大きいタイマーを配備し、「シェア・タイム」のタイムマネジメントだけでなく、授業全体のタイムマネジメントにも活用することとした。また、セルフチェックアンケートで「まとめでは、どのように自分の言葉でまとめさせているか」について聞き、その回答をプリントや教職員用掲示板で紹介し、見える化を図った。

7月と12月に実施した学校評価アンケート（生徒）において、「課題」・「シェア・タイム」・「まとめ」に関する項目の肯定的評価は若干ではあるがプラス傾向にある。中でも「まとめ」に関する質問（授業や単元の終わりには、学習したことをまとめたり振り返ったりする時間がある）では、肯定的評価が前期よりも2ポイント増加しており、タイムマネジメントの意識が定着してきたことが伺える結果となった。また、教職員のセルフチェックアンケートでは、多少の数値変動はあるものの、「まとめでは自分の言葉で書く活動をさせている」という質問では、2学期からは肯定的評価が85%以上となり、定期テストの記述式問題における正答率が徐々に上昇するという傾向が見られ、教職員の意識が生徒の学力につながるという結果を得られた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・事前研の実施で参観の視点を絞ったことやグループごとの協議を整理会で設ける等、校内研の活性化を進めることにより、本校の目標である「課題」・「シェア・タイム」・「まとめ」に関する教職員全体の授業づくりの意識向上を図ることができた。
- ・板書計画を指導案に入れたことで、計画的な板書を意識した授業展開ができるようになってきた。
- ・ホワイトボード等の教材教具を使いやすい数に調整し、またその活用について話し合ったり、実践例を共有したりすることで、学校全体で授業力の向上を図ることができた。基礎基本の取組では各学年・各教科の普段の授業での取組などをプリントや職員掲示板に紹介し、職員での共通理解が深まるようにした。これらは年間を通じた授業力向上の取組の一助となった。

(2) 課題

- ・シェア・タイム（学び合い）を中心とした研究は5年目となり、授業での実施回数は増えている。今後はシェア・タイムの質の向上を考える必要がある。ただ話し合いをさせるのではなく、教師も生徒も目的をしっかりと把握し、どの形態でどんな話し合いをするのかを明確にしていきたい。
- ・年間を通じて、全教員が見通しを持って校内研に臨み、主体的に授業力を向上させていけるよう互いに見合う時間をしっかりと確保して校内研を充実させていく必要がある。